



福祉にふれる体験・学習 支援メニュー



社会福祉法人愛荘町社会福祉協議会



《愛知川事務所》

愛荘町立福祉センター愛の郷内

電話：42-7170

FAX：42-7178

E-Mail： ainosato@ex.bw.dream.jp

《秦荘事務所》

愛荘町立福祉センターラポール秦荘

いきいきセンター内

電話：37-8063

FAX：37-4343

E-Mail： ikiiki-c@office.eonet.ne.jp

《ふれあい共同作業所》

電話：42-2264

FAX：42-2264

E-Mail： ai.fureai@bz03.plala.or.jp

★社協の公式 LINE もぜひ登録してみてください！



目次

・ 目次	1
・ はじめに	2
・ 社協の役割について	3
★プログラム集	4
・ ①車イスを使う人の理解	5
・ 車イスを使う人の理解：プログラム(例)	6
・ ②視覚障がいの理解(1)(アイマスク体験を中心とした学習)	7
・ ②視覚障がいの理解(2)(当事者のお話・点字体験を中心とした学習)	8
・ 視覚障がいの理解：プログラム(例)	8
・ ③聴覚障がいの理解(手話体験を中心とした学習)	9
・ ④認知症の理解	9
・ ⑤多世代・多様な人の理解(施設見学・体験を通じた学習)	10
・ ⑥災害・防災の学習	11
・ ⑦共同募金の理解	11
★参考資料(社協の取り組み)	12
・ ボランティア体験	13
・ 発達障がいの理解	13

はじめに…子どもたちへの福祉学習

愛荘町社会福祉協議会（以下、社協といいます。）では、各学校をはじめとする教育機関や福祉関係機関・団体、地域の皆様と協働しながら、子どもたちに福祉を学んでいただいています。命を大切にし、人を思いやる心と優しい行動ができる人間への成長を願って福祉学習に関わる活動に取り組んでいます。

今回は、社協で取り組んでいる活動や支援している内容をご紹介します。

★福祉学習の目的・伝えたいこと

「みんなの命かがやく、支え合えるしあわせな地域づくりを目指して、福祉教育をおこなっています」

福祉学習について住民や関係機関の皆様と検討を進めています

《取り組んでいくこと》

- ◎福祉学習に関する社協や関係機関等との協力体制づくり（コーディネートなど）
- ◎横のつながりづくり（社協・学校・地域・企業・関係団体等との連携）

取り組みを進めるために

障がいを持って
おられる当事者の
想いは？

住民・地域・当事
者など、どう巻き
込んでいく？

例えば…

学校の
先生・児童の
想いは？

紹介できる福祉
学習メニューの
内容は？

最終目標

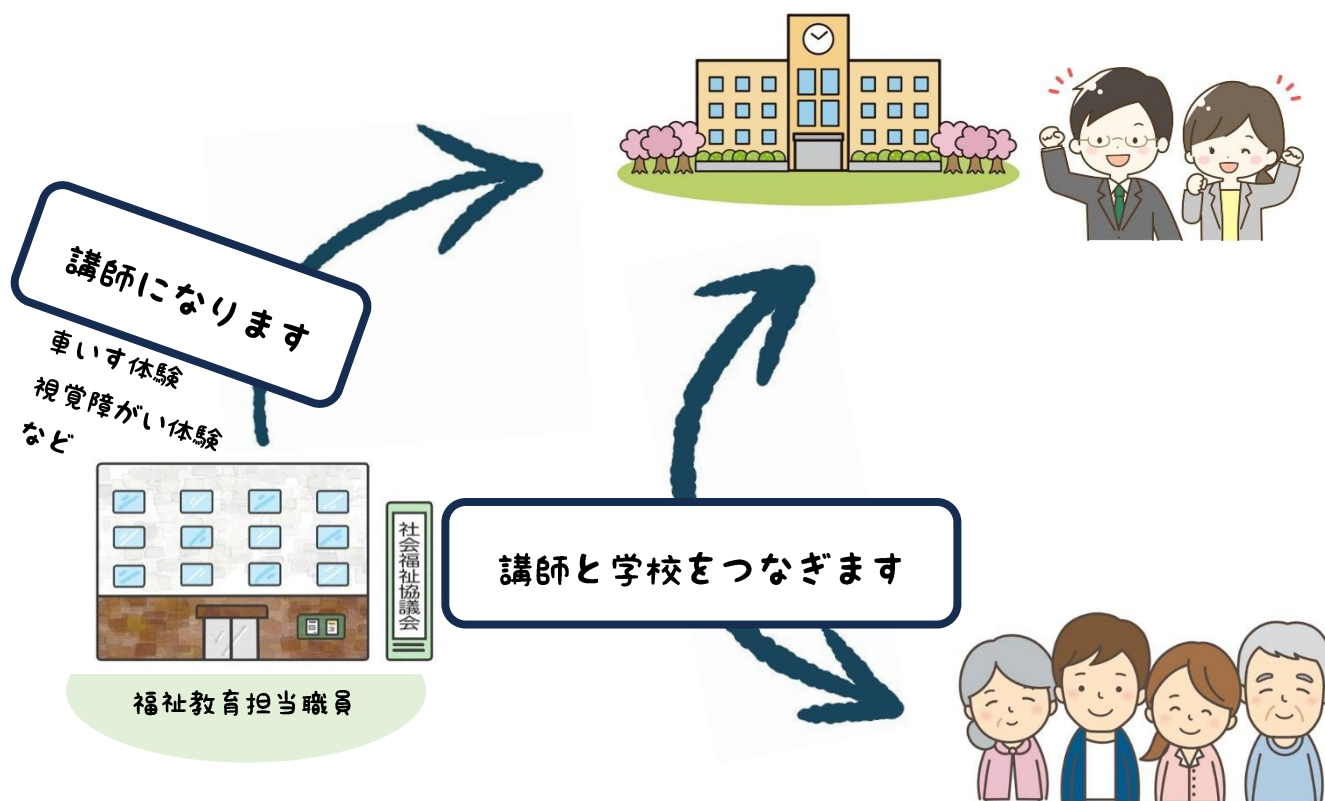
学校・地域・当事者など、
すべての方が関わる福祉学習
を進めていきます



社協の役割について

愛荘町内には4つの小学校、2つの中学校、1つの高校があります。

社協職員が講師となって伝えること、地域との接点、福祉を教えてください個人や団体に講師を依頼する際に学校と連絡・調整の役割をしています。



福祉について教えてください個人や団体

先生方へのお願い

本会の福祉学習プログラムは、学校側と内容を調整しながら、地域の団体・講師等にご協力をいただき、プログラムを提供しています。児童・生徒にとって、より効果的なプログラムを先生方と一緒に考えるため、以下のお願いをさせていただきます。

- ① 学校教員や社協職員を含め4人以上の大人の見守りが必要な体験型授業や講師が社協職員ではないプログラムを行う場合、人手の確保や日程調整が必要となります。お忙しいところ恐縮ですが授業のご相談はお早めをお願いします。
- ② 実施日は相談のうえ決定しますが、申込状況によってはご希望に沿えない場合もございます。

※より良いプログラム実施のために、ご協力をお願いいたします！



★プログラム集



高齢者世帯への見守り訪問でプレゼントを手渡す児童

①車イスを使う人の理解

車イス乗車体験を通して、バリアフリーや高齢者・身体障がいについて学びます。
車イスに乗っている人に出会ったとき、自分たちがどのような手助けができるのかを考えます。

対 象：小学校3年生～

対象人数：10～60名程度(クラス単位での実施が多い)

実施場所：体育館・町内施設 等

使用教材(学校用意)：段差等に利用できるもの(マット 等)

講 師：社協職員、じょいふるあいしょうこんぺいとう職員

学習内容：次ページに詳細プログラム例

- ・高齢者について・バリアフリーについて
- ・車イス体験(実際に乗ってみよう)



車イスの使い方・介助方法



体育館内で体験



学校の敷地内で体験



スーパーでの買い物体験

車イスを使う人の理解：プログラム例

時間	内容
基本学習（体育館で完結します）	
5分～ 20分	① <u>車イスが必要な場面や高齢者についてのお話</u> 高齢者についてお話する場合は20分程度話します
10分	② <u>車イスの使い方・介助の仕方</u> ・自走式・介助式車イスの違い、介助時の声かけ
30分	乗車体験(前半) コーンの往復（介助パターン ※2人1組） 介助（乗る方と介助する方）を全員が体験 自走する方法を説明 （説明は中央のコーンを使うので児童はその周辺で聞く） コーンの往復（自走パターン）
5分	休憩（マットを敷く、コーン片付ける）
25分	乗車体験(後半) 段差について説明 （説明は中央のマットを使うので児童はその周辺で聞く） マットを使用した段差の体験（介助パターン ※2人1組）
8分	体育館周辺のスロープを使って、スロープの注意点を説明する （時間があれば階段の乗り越え方も説明） 代表の生徒に体験してもらう
10分	★まとめ ・（時間があまれば）車イス・バリアフリークイズ ・今回の体験の振り返り、質問時間
ステップ学習（校外で体験します）	
90分	グループに分かれて車イス体験係・インタビュー係・記入係・写真係に分かれてローテーション。 ※学校外での体験であり、児童の安全確保の体制が必要です。 ① <u>スーパーでの車イス体験</u> ・車イスに乗り、買い物・エレベーター・多目的トイレを体験する。 ② <u>踏切での車イス体験</u> ・車イスに乗り、踏切の溝・段差を体験。

②視覚障がいの理解(1)・・・アイマスクで疑似体験

弱視・視野狭窄メガネ、アイマスク体験を通して、視覚障がいについて学びます。

アイマスクを付けて学校内を歩く、文字を書くなどの体験を通して、視覚障がいのある方の普段の生活がどのようなものなのかを実際に体験します。

対 象：小学校3年生～

対象人数：10～60名程度(クラス単位での実施が多い)

実施場所：教室・廊下・階段 等

使用教材(講師用意)：弱視・視野狭窄メガネ、アイマスク

(学校用意)：ウェットティッシュなど消毒できるもの

講 師：社協職員

※ガイドヘルプ体験は見守りする大人が必ず必要です

学習内容：次ページに詳細プログラム例

- ・弱視・視野狭窄メガネ・アイマスク体験

- ・ガイドヘルプ体験(学校内を歩いてみよう)



視覚障がいについてのお話



弱視・視野狭窄メガネでの体験①



弱視・視野狭窄メガネでの体験②



ガイドヘルプ・アイマスク体験

②視覚障がい理解(2)・・・当事者のお話

視覚障がいのある方に講師を依頼し、盲導犬・点字について学びます。

対 象：小学校3年生～

対象人数：10～60名程度(クラス単位での実施が多い)

実施場所：教室・コミュニティルーム

講 師：視覚障がいのある当事者

学習内容：盲導犬についてのお話、点字体験



山野先生・盲導犬について学ぶ



ロイ先生・点字体験で学ぶ

★視覚障がい理解：プログラム例

時間	内容
視覚障がい理解 (1)	
5 分	3 種類の眼鏡を渡し視覚障がいについてのお話
20 分	社協作成の冊子を使って視覚障がい体験
10 分	ガイドヘルプについて説明。アイマスクをつけたまままでの校内の歩き方を説明
5 分	休憩
40 分	アイマスクをつけて当事者役とガイドヘルプ役のペアで校内を回る
3 分	まとめ ・体験の振り返りや質問時間
視覚障がい理解 (2)	
60 分	当事者 1 人目山野先生 「盲導犬についてのお話」
90 分	当事者 2 人目滋賀県立盲学校ロイ先生 「点字についてのお話と点字体験」

③聴覚障がいの理解・・・手話体験を中心とした学習

町内にある手話サークル「ゆびゆり」さんに講師を依頼し、聴覚障がいについて学びます。

対 象：小学校3年生～

対象人数：30～70名程度(学年合同での実施が多い)

実施場所：広めの教室 等

使用教材：プロジェクター・電子黒板 等

講 師：手話サークル「ゆびゆり」

学習内容：当事者のお話、〇形ゲーム・ジェスチャーゲーム・手話等



当事者のお話



手話体験

④認知症の理解

「認知症キャラバンメイト」さんに講師を依頼し、認知症を学びます。

対 象：小学校3年生～

対象人数：30～70名程度(学年合同での実施が多い)

実施場所：広めの教室 等

使用教材：プロジェクター・電子黒板

講 師：認知症キャラバンメイト

学習内容：紙芝居、脳トシ体験等



紙芝居朗読



脳トシ体験

⑤多世代・多様な人の理解・・・施設見学・プレゼント作り

乳幼児親子の地域サロン、高齢者の地域サロンへの訪問、福祉の現場での体験、社協のいきいき見守り訪問事業(一人暮らし高齢者・高齢のみの世帯への見守り活動)で使用するプレゼント作りを通じて、町内にさまざまな人が住んでいることの理解と地域でのつながりの大切さについて学びます。

対 象：小学校3年生～

対象人数：30名程度(クラス単位での実施が多い)

実施場所：教室、愛の郷、ふれあい共同作業所、いきいきセンター、
自治会の草根のハウスなど

講 師：社協の各事業担当・地域住民

学習内容：高齢者との交流、乳幼児との交流、高齢者世帯の見守り活動、
就労継続支援事業所での仕事体験



愛の郷・わんぱくひろばで体験



自治会サロンで高齢者との交流



高齢者見守りのプレゼント作り



ふれあい共同作業所・仕事体験

⑥災害・防災についての理解

クロスロードゲームや防災グッズ作りを通じて、災害が起きた時の身の守り方、普段からの災害対策・備えの大切さについて学びます。

対 象 ： 小学校 4 年生～

対象人数：30 名程度(クラス単位での実施が多い)

実施場所：教室

講 師：社協職員、くらし安全環境課職員

学習内容：防災・減災ゲーム「クロスロード」、防災グッズ作り、実際の被災地避難所についてのお話、ハザードマップで自分の住んでいる地域を知る



クロスロードゲーム



くらし安全環境課職員によるお話

⑦「共同募金運動」の理解

「集まった募金は何に使われているの？」等、私たちのまちを良くするしくみである共同募金運動について学びます。

対象学年：小学生 4 年生～

対象人数：数名～

実施場所：教室など

使用教材：(学校用意)：ボール紙・はさみ・マジック 等

講 師：社協職員

学習内容：①募金のお話

- ・ 赤い羽根共同募金は、いつ・何のためにできたのか？
- ・ 募金はどのくらい集まるの？
- ・ 集まった募金は何に使われているの？

②啓発活動・体験

- ・ 募金箱作成活動
- ・ 街頭募金

★参考資料

社協の取り組み



発達障がいを学ぶ先生

ボランティア体験

「ボランティア活動ってなんだろう?」「どんな活動があるのかな?」など、ボランティア活動がどういうものなのかを学ぶ取り組みを「ちょっとボランティア活動」、通称「ちょボラ体験」として行っています。

対 象：小学生～

対象人数：数名～

実施場所：福祉センター愛の郷 他

講 師：社協職員・企画内容に合わせた講師

令和7年度企画例：

① わんぱくひろば体験

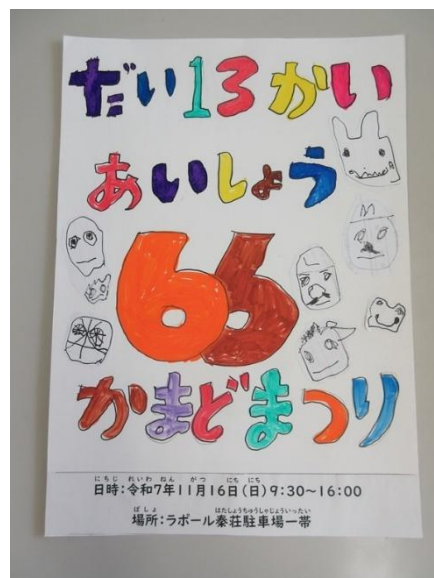
わんぱくひろばにて子どもの遊び相手やおもちゃの片づけ等を手伝う。

② かまど祭運営ボランティア体験

毎年11月に開催される66かまど祭の出し物を愛荘町商工会さんと企画・参加。



わんぱくひろば体験



発達障がいの理解

発達障がいの特性についての入門講座。疑似体験を通じて発達障がいがある方とのコミュニケーションの工夫を学びます。

対 象：発達障がいに関心がある方

対象人数：数名～

実施場所：電子黒板・プロジェクターが使える環境であればどこでも可能

講 師：社協職員



みんなで進める
笑顔あふれる
福祉のまちづくり



2025 年 12 月作成

愛荘町内にある福祉施設一覧

愛知川学区

(お年寄りの方が利用できる施設)

愛・ユー	 石橋 905
ハーモニーハウス愛荘	 豊満 1291-1
いしころ民家	 市 1349-1
ハッピーライフゆりの郷	 市 1509
長野の里	 長野 1499
こんべいとう	 愛知川 808
じょいふるあいしょう	 愛知川 808
きずな	 長野 2380-11

(障がいを持った方が利用できる施設)

MK工房	 豊満 1352-10
ふれあい共同作業所	 愛知川 1749-1
すまいるきっず	 市 1490
か〜む・すら〜ぶ	 川原 702-1
オリーブ	 愛知川 1633-1

(子どもが利用できる施設)

わんぱくひろば	 市 731
つくしひろば	 川原 680

秦荘学区

(お年寄りの方が利用できる施設)

愛荘ゆらぎあんどん	 島川 1321
すずらんの家	 岩倉 754-2
やまびこ	 安孫子 1235
秦荘通所介護事業所	 安孫子 1216-1

(障がいを持った方が利用できる施設)

愛犬つくし教室	 竹原 528
コスモス共同作業所	 常安寺 433-1
直心庵	 竹原 856-1
セルプはたしょう	 軽野甲 654

(子どもが利用できる施設)

あいっ子	 安孫子 811-1
------	---